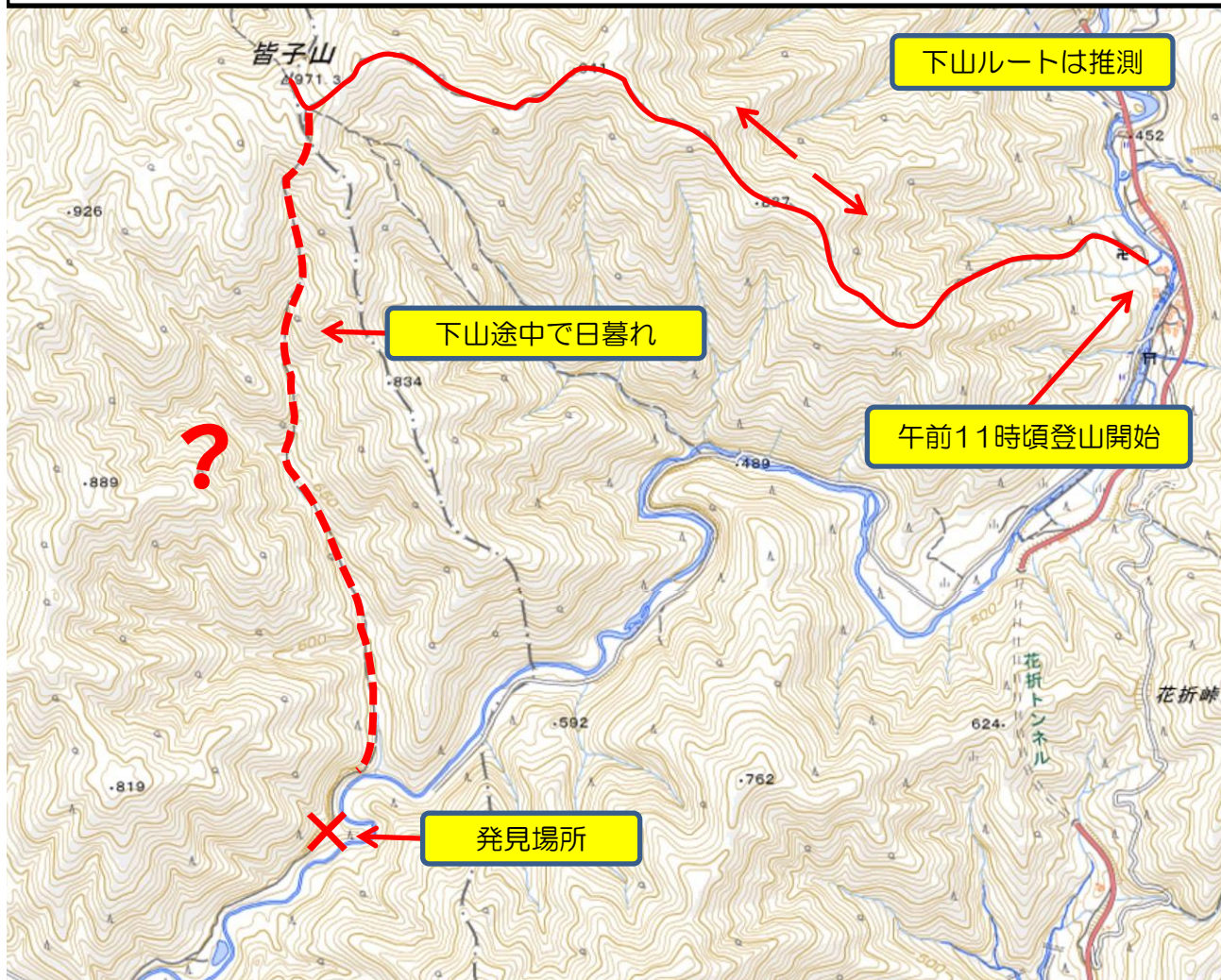


皆子山遭難(2012年8月)

10～13歳小中学生5人と保護者ら3人の計8人が下山できずに遭難。翌日、早朝に下山したところを発見された。



解説

8人は、10～13歳の小中学生5人と保護者の3人。予定より遅れて午前11時ごろ、大津市側から登山を開始したが、大津市側に下山途中で日暮れを迎え、方向がわからなくなり山中で1泊。

午前5時の捜索開始から20分後に、京都市左京区の皆子谷登山口から南西約300メートルにある百井川の河川敷で8人を保護した。子供たちの歩くペースが予想よりも遅かったことなどから日没を迎え、道に迷ったという。一行は午後8時ごろ、下山を中断。開けた沢の辺りで休み、日の出を待った。その間、携帯電話の電波も通じなかったという。軽装だったため、夜間は肌寒く感じられ、雨具を着てしのいだ。十分な食料も用意しておらず、「お菓子を少しつまんだ」程度だった。夜明けとともに、登山口を目指して自力で下山を再開した。(HP参照)

子供と一緒にあれば、「まずは安全第一！」。午前11時に出発し、歩くペースが遅いとなれば、「途中で引き返す」という答え一択と思う。下山ルートの詳細は不明だが早朝に発見場所にいたということは、発見場所に近い推測のルートだろうか？標高の低い里山だが、登山の基本を守らないといけないと思える事例であった。